

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和3年第35週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和3年第35週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和3年第35週（令和3年8月30日から令和3年9月5日まで）

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）流行性角結膜炎 3）ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.51人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.19人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～子どもの感染対策～”について取り上げました。

新型コロナウイルス感染症の第5波における川崎市の報告数は、7月下旬から急増し毎週3000件を超えていたものの、令和3年第35週（8月30日～9月5日）は2216件と大幅に減少しました。第5波では、これまで報告数の少なかった20歳未満が増えており、特に10歳未満の割合は第31週（8月2日～8月8日）以降5.0%を超え、第35週は7.5%でした。

夏休みが終わり、小・中学校等では授業が再開されました。学校内での感染を防ぎ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染対策のポイントを今一度確認しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

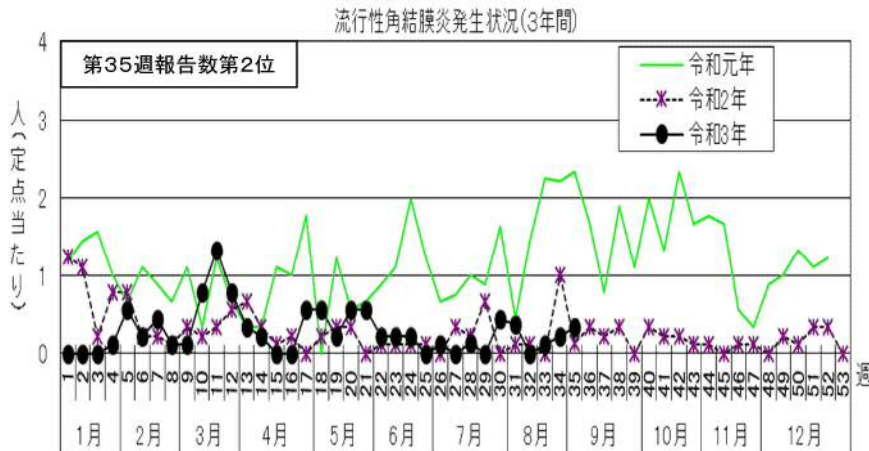
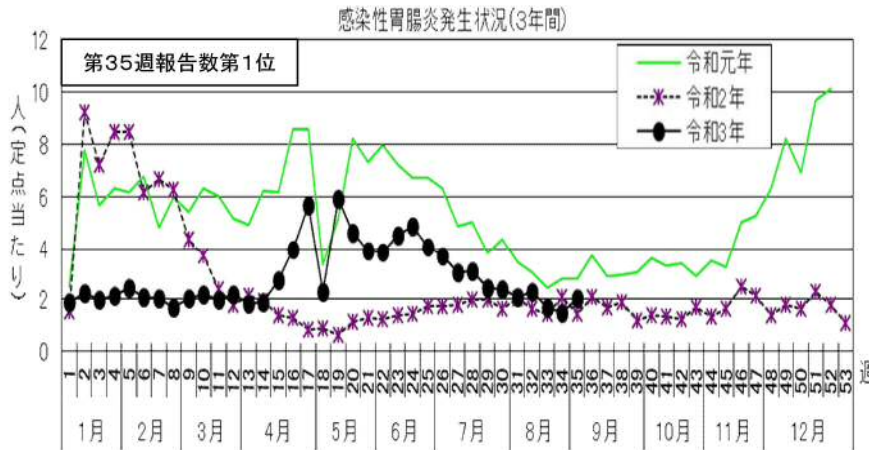
連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月30日（月）～令和3年9月5日（日）〔令和3年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.51人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.19人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

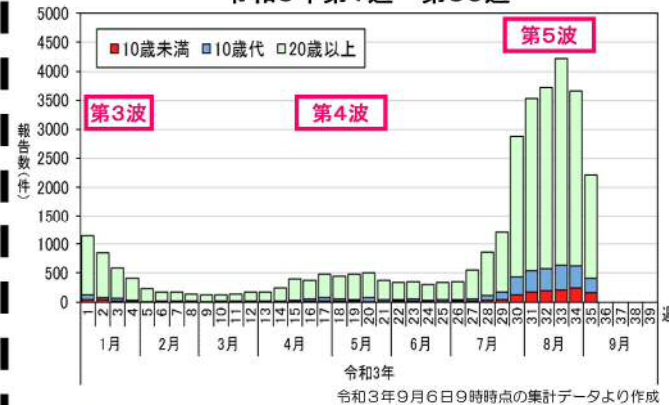


新型コロナウイルス感染症～子どもの感染対策～

新型コロナウイルス感染症の第5波における川崎市の報告数は、7月下旬から急増し毎週3000件を超えていたものの、令和3年第35週（8月30日～9月5日）は2216件と大幅に減少しました。第5波では、これまで報告数の少なかった20歳未満が増えており、特に10歳未満の割合は第31週（8月2日～8月8日）以降5.0%を超え、第35週は7.5%でした。

夏休みが終わり、小・中学校等では授業が再開されました。学校内での感染を防ぎ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染対策のポイントを今一度確認しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別及び年齢階級別発生状況 —令和3年第1週～第35週—



～保育園や学校等における感染対策～



マスクの着用について

- ✓小学生以上は、身体的距離が十分取れない際に着用
- ✓呼気が激しい運動をする際や気温・湿度の高い日はマスクを外す。
- ✓就学前の小児は、基本的にマスクの着用は不要

発熱や咳などの風邪症状がみられた際は、無理に登園・登校はせず、医療機関を受診しましょう。

